



デア ハーフエン Der Hafen

Nr. 49
2019年 3月・4月

「悩む欧州の女性リーダーたち その① メルケル独首相」

NPO法人 横浜日独協会会長 早瀬 勇 (全国日独協会連合会副会長)

【1】メルケル 64 歳の悩み—首相が直面する 内憂外患 (ないゆうがいかん)

(a) メルケルの内憂—党首は辞任、首相は続投

難民受け入れを争点とした昨年の総選挙と地方議会選挙で、与党CDUの議席は大幅に減った。その責任を取ってメルケルは 18 年間座り続けた「党首」を辞した。しかし 13 年間守っている「首相」の座は任期を全うする強い覚悟を表明した。任期が満了する 2021 年には、「統一宰相」コールの在位 16 年に並ぶ。

幸いなことにCDU党大会は、党首の後任にメルケル子飼いのクランプカレンバウアー (愛称AKK) を選んだ。これはメルケルにとって、政府と党の緊密な協調を保つうえで理想であろう。しかしメルケルが任期を全うできるのか、またAKKが後継首相にすんなり納まるのかは、メルケルの魔法の様な政治生命を振り返ると誰も予断できない。ヤミ献金事件で恩人コールに引導を渡し、ライヴァルが次々に消えてゆき、入党 10 年で党首になり、最年少かつ初の女性首相に就任し、前任首相シュレーダーの改革の果実を享受して、EUの盟主になった強運の持ち主である。イデオロギーを持たない柔軟さも武器と言える。



(b) メルケルの外患—反難民・反EUで離反する ポピュリズムの国々

メルケル独首相が寛大な難民政策を敢行し、人道主義からEU加盟国にも強く協力を要請したことに対し、ハンガリーやポーランドなどの諸国は反旗を翻した。移動の自由が表看板のEU内で、一般大衆は単純に、外国人が職を奪い安全を乱すと怖れている。EUによる経済的メリットを分析するロゴス (理性) を政策に反映させるのが政治家やメディアの責任なのだが、国民のメンツや排他主義を優先するパトス (感情) に媚びている。現政権を批判するだけのポピュリズムが国を豊かにすることはない。イタリアの減税、所得分配政策が好例だ。

ハンガリーのオルバン首相にしろ、ポーランドのカチンスキー与党党首にしろ、かつて共産主義政権を打倒した民主化運動の闘士たちだ。その民主化のリーダーたちが、大衆の政治エリートに対する反感を煽って、ポピュリズムの独裁者になっている。

ソ連の圧政下で民主主義に憧れた民主化の闘士たちが、今民主主義の危うさから身を守るために大衆迎合主義の鎧をまとったと言える。

欧州の極右政党は、伝統的なエリート中心の中道・穏健政党に対抗して、無組織の不満な大衆票をかき集めた。最近パリなどで続く反マクロン・デモも、司令塔があるわけではなく、その都度SNSの呼びかけに応じた“中抜き”政治運動だ。マクロンの高邁なEU改革も、またメルケルとの独仏指導体制も、いま危機にさらされている。

フランスでは、2017 年ルペンの国民戦線 (当時) が反EUを掲げ、第二党に躍り出た。オーストリアでも同年、当時 31 歳のクルツ氏が組閣、極右の自由党が政権に加わった。2018 年にはイタリアでも、更に元々移民に寛容だったスウェーデンでも、テロ事件をきっかけに 39 歳のネオナチのオーケソンが民主党党首に就いた。これらのポピュリストたちが、米国の自国第一主義や、英国のEU離脱に影響されたことは否めない。今年 5 月の欧州選挙が注目を集めている。

欧州のポピュリスト政権に望みたい。難民を活用して自国の生産性を高め、若い国民の労働意欲を喚起してはいかがだろうか？ EUを離れて今の経済水準が保てると思うのか、考えてほしい。

(c) 「民主主義・自由な経済・法の支配」を守るのは 日本とドイツだ

ドイツの「中国一辺倒」が変化している。マース独外相も、経済偏重・中国依存のアジア政策を自己批判した (本誌 46 号参照)。メルケル首相も 2 月 4 ~ 5 日の第 5 回来日で「日・EU経済連携協定 (EPA)」発効を踏まえ、また米国の保護政策や中国との技術移転問題を背景に、日本との連携強化を唱えた。

今年は日本がG20の議長国を、ドイツが国連安保理の非常任理事国を務める。日独両国は、マース外相が言う「ルール・シェイパー (国際秩序形成の推進役)」として、米国を多国間自由経済圏に引き戻す努力が必要だ。また第二次世界大戦の負の遺産を改める国連改革でも、手を携えてルール・シェイパーの役割を果たす時が来ている。G7で最長老のメルケル・安倍両首相の果たすべき役割は大きい。(了)

(悩む欧州の女性リーダー “その 2. メイ英国首相” は次号に掲載します。)



To the world, to the future

KANAGAWA UNIVERSITY

ドイツ連邦共和国との繋がり

本学はドイツ国内7大学との学術交流協定を締結し、盛んな学生交流を行っております。ドイツへの派遣留学では2018年度は9名、2019年度は13名(予定)、また、ドイツからの受入留学では2018年度は9名が本学にて学習しております。また、異文化理解の促進やキャンパスのグローバル化の推進のため、座学だけではなく国際イベントなどを通じた教育にも注力をしています。

駐日ドイツ連邦共和国大使による講演会

2018年11月、駐日ドイツ連邦共和国大使ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン氏により、3回目となる講演会

「大使とは何か。ーグローバル世界における外交の役割」が開催されました。

グローバル社会の中核を担う人材の育成を目指す本学にとって非常に興味深いテーマであり、講演後の質疑応答では、多くの時間を割いて本学の学生らと積極的に意見交換をしていただきました。2019年2月にはレセプションパーティを開催し、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ連邦共和国大使と兼子学長により、今後の日独親善や世界平和に貢献する人材の育成について意見交換がなされました。



インターナショナルウィークの開催

本学では毎年、特定の国や地域をテーマにキャンパス全体を国際的な学びの場とする「インターナショナルウィーク」を開催しています。

2017年度はドイツをテーマとし、駐日ドイツ連邦共和国大使ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン氏やケルン大聖堂建築マイスター ペーター・フューセニツヒ氏によるアカデミックな講演会のみならず、食文化体験や人形劇の公演なども開催し、多くの方々にご参加いただきました。なお、ケルン大聖堂建築マイスター ペーター・フューセニツヒ氏には、2019年度にもご講演をいただく予定です。

新学部、新キャンパスを開設予定!

2020年4月に新学部「国際日本学部」の開設を予定しています。この学部では、単にグローバル社会への対応能力の習得だけでなく、世界・日本・地域社会を「文化交流・多文化共生・コミュニケーション」という軸で読み解き、日本が育んできた「世界に通用する価値観」や「共生のための新しい倫理」を掘り起こし、創成し、世界に発信する能力を養います。

また2021年4月には、みなとみらい21地区に都市型・未来型キャンパスとして「みなとみらいキャンパス」の開設を予定しています。本学は更なるグローバル化を目指します。

海外企業見学会

本学外国語学部では、国際情勢を肌で感じるとともに、グローバルな視野を養う活動として「海外企業見学会」を実施しています。ドイツでの海外企業見学会では、ドイツを代表する企業(BMW・バイエルン州放送局等)や在独の日系企業(ANA・H.I.S.等)を訪れ、現地の企業・経済活動や日独の労働に対する価値観の相違などを知る機会としています。また、企業見学だけではなく、ダッハウ強制収容所跡地やケルン大聖堂、世界初の社会福祉施設フッガーライを訪問し、歴史、文化、社会についての学習も行っています。この体験は、学生がドイツ語を学習する上での大きな動機付けとなっています。



2021年4月開設予定みなとみらいキャンパス完成イメージ図

神奈川大学

[横浜キャンパス] 〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1/TEL: 045-481-5661 (代)

[湘南ひらつかキャンパス] 〒259-1293 神奈川県平塚市土屋2946/TEL: 0463-59-4111 (代)

2019年新年例会：

「ドイツと日本一両国の今後の行方は？」
を拝聴して



新入会員 金子純子

今年最初の例会は、ドイツ大使館の首席公使でいらっしゃる Dr. Klaus Vietze 氏によるドイツ政治情勢を中心とするお話でした。私は自分でも何故かと思うのですが女性としては少々変わっていて、日本の中の細かな事より世界の事、また世界に於いて日本がどのような状況にあるのか、に関心があるので今回は楽しみに出席させて頂きました。



ドイツの CDU 党首選挙、BREXIT についてのこと、更には中国についての公使のお考えがいろいろ伺えてとても有意義なひとときでした。CDU ではメルケル首相の後継者たるべき人が選ばれたことでドイツの政治に大きな変化はなく、例えば移民の問題は感情論でなく受け入れるべき態勢を国が作ることで解決に向かうだろうという事、次に BREXIT については憂慮しており、日本とても今後少なからず影響を受けるだろうという事、そして中国についての公使のお考えを述べられました。

「あのような国を隣国に有している日本は、これから単独で守ってゆくのは難しいことだ」と仰ったことは、中国ご駐在の間にいろいろ目の当たりになさったことがあっての事と思うのです。第三者のお立場から日本のためにご心配くださって本当に有難いと思う一方、矢張り私が心配していた事は的中しているのだ、と孫子の代を思い暗い気持ちにならざるを得ませんでした。

壁のあったドイツを経験なさっていらして、その頃の東独からの日本留学体験のお話も本当に興味深く伺いました。

実は私の亡夫との6年間(1966~1972)のボン滞在時はまさにそういう時代のドイツでしたから。当時の家に来る学生達の「壁があって当たり前、慣れたものさ」という雰囲気が私にはどうしても理解出来ませんでした。その頃には半永久的な事として捉えていた、というか諦めていたのでしょうか。ですから私達の帰国後十数年余りでの突然の壁の崩壊という出来事の驚きと興奮は今でもまざまざと思い出されます。

このたびこうして横浜日独協会に入会させて頂いて、偶々最初にこのような興味深いご講演を伺えたことは本当に幸運でした。これからも機会のある毎に参加させて頂きたく、どうぞよろしく願い申し上げます。

ドイツ連邦共和国大使館

クラウス フィーツェ首席公使の講演を聞いて



会員 山口 純史

私は、1972年大学4年生の時に、大学を一年休学し、国際学生技術研修協会のインターンシップ学生として、スイスに4ヶ月、北ドイツの小さな町 Paderborn にあった Nixdorf Computer で4ヶ月過ごす事が出来ました。この Nixdorf Computer に大学卒業後にエンジニアとして就職が決まり、1974年から76年まで、色々な貴重な経験をしながら技術者として働きました。その後、日本に帰国し、日本企業でビジネスマンとして働き始め、1981年から1987年までデュッセルドルフに派遣され、ドイツのみならず欧州全体のビジネスを経験する事が出来ました。3回にわたるドイツでの滞在中、ドイツ流の効率的な仕事の仕方を覚え、論理的な物事の考え方、仕事とプライベートの切り替えなど、その後、9年にわたる米国滞在やグローバルな仕事をする際にも、ドイツでの経験は非常に役に立ち、又、人生の過ごし方に多大な影響を受けました。

1月19日に戸塚区役所で開催された、ドイツ大使館の首席公使であるフィーツェさんの講演会に参加しましたので、その感想を述べたいと思います。



講演の始まる前に、彼の略歴が配布され一読した時に、軽い驚きを覚えました。旧東ベルリンで誕生され、旧東ドイツのフンボルト大学で日本地域研究をし、大学に在学中に東海大学に留学され、ベルリンの壁崩壊後、ドイツが統合され米国に留学したのちドイツ外務省に入省されキャリアを積み、今回がドイツ外務省から日本に派遣される3度目の滞在(学生の時を入れると4回目)であるという、非常にユニークな経歴を持っておられる事でした。今回の講演に参加するまでは、このような経歴をお持ちであるとは、知りませんでしたので、講演はドイツ語で行われ、少しお堅い話になると考えておりました。しかし、彼の日本語は非常に流暢で、且つ、話の内容が素人でも判りやすかったのに驚きました。講演は、ドイツ首相のメルケルさんが2月に来日、日本との連携協議、又、6月に日本で開催されるG20への参加、EUと日本とのEPA(経済連携協定)

締結による大きな経済効果のメリットという、一連の日本とドイツにかかわりのある話から始まりました。その後、講演内容は2020年の東京オリンピックで日本の色々な地方都市がドイツのチームをオリンピック前に受け入れ国際親善に寄与してくれていることへの感謝、それからドイツの事のみならず、世界のポピュリズムへの警鐘、米国のトランプ政治のもたらす不安、ドイツと思考方法がEUの中で一番似ている英国のEU離脱のもたらす危機、奥さんとともに赴任した中国での言論統制への危惧、日本と韓国との関係悪化、ロシアとの関係改善の重要性等、非常にわかり易く冷静な外交官の洞察力で客観的かつ中立的に説明して頂き大変参考になりました。その後、質疑に移り、メルケルさんのCDU党首後任となったクランプカレンバウアーさんの経歴の紹介、東西ドイツが統一される前、東京にあった旧東ドイツ大使館は旧西ドイツ大使館より大きく、大使館が日本との貿易推進を活発にしていた事実（これには正直驚きました。）、自分が日本に興味を持ったのは父親がモンゴル語の教授、母親は中国語のエキスパートであったため、子どものころから自然とアジアに興味があり日本との出会いがあり今日の自分に繋がった、難民の問題は、歴史的にドイツは色々な人種を受け入れて来たので、今回の難民問題は最初一挙に押し寄せる難民の手続きに支障を来たしたが克服できる等の話をして頂きました。フィーツェさんの温厚な話しぶりの中にも外交官としての、歴史認識、世界情勢、日本との経済協力等、プロとしての意識の高さが講演の中で何度も感じられ、とても有意義なお話を伺えた事に敬意と感謝をしたいと思います。

2019年2月例会 (2019年3月24日記)



G. ロエル NRW 州公社
ジャパン社長
EU、ドイツ、そして日本
～現在、過去、未来

会員 浅尾 一寛

今回歴史と伝統のある横浜日独協会へ加入させていただきました横浜市青葉区に住居を構えている浅尾一寛（あさお かずひろ）と申します。今年の1月に都内でドイツ関連行事で着席した椅子が横浜日独協会の早瀬勇会長様の横にあり、声を掛けていただいたのが、横浜日独協会へ加入するそもそものきっかけでした。

私とドイツとの関連は、学生時代にドイツ語を学習する機会があり、卒業後の職業を選択するについてドイツ語と関連する職場を探しました。就職後は期待に反して日本国内の営業を担当することになり、全国各地を飛び回りました。ドイツ語の学習も中断していました。37歳で社命でスウェーデンのストツ

クホルムに参りました。スウェーデン語はドイツ語と似ているところがありますが、書かれたものはパズルのようなもので、私の、拙い英語とドイツ語を駆使して読むようにしましたが、全く歯が立ちませんでした。その時感じたのは、その国を理解するには日本語の紹介本も出回っていますが、やはり現地語の習得が不可欠だということでした。そこで昔習ったドイツ語をベースにして、次はドイツに滞在してみたいと強烈に再び思い込むようになりました。

日本に帰国しての仕事はドイツに関係が殆どなく、ドイツに行けるチャンスは遠のくばかりでした。しかし若い時に刷り込まれた目標は捨てがたく、常に自分の心の中に【いつかは】という気持ちは持っていました。その後転職することになり、医療機器メーカー本社で、海外との取引の窓口を担当することになりました。そんなある日、上司との打合せのなかで、青天霹靂でドイツのデュッセルドルフの現地法人へ駐在することになりました。2004年1月7日にフランクフルトの飛行場で、JALバスでホテルNikkoに夜の8時過ぎに到着しました。ドイツの大地を1月の寒い厳しい季節のなかで、まずは第1歩踏みしめた感激はいまも鮮明に覚えております。その時は既に57才でした。

その後7年半は折角もらった貴重な体験として、65才に定年退職になってドイツから帰国までなんとかやってきました。その時が今から思えば私の人生のなかで公私に亘り最も充実していたと思います。

最近老齢になってきましたので、老人としての小言として言いたいのは、【若い時の夢は持ち続けること、チャンスは必ず目の前を通りすぎるので、夢のある限りあきらめないで、追いつけてほしい】と思います。

これからは会員にさせていただき、ドイツの歴史が好きですが、各種関連行事に参加させていただき、ドイツという共通のテーマで皆さんと親しくお付き合いをさせていただきたいです。宜しくお願いします。

ロエル氏のご講演を聞いた感想を述べさせていただきます。欧州連合（EU）は、20世紀において世界を巻き込んだ人類最大の悲劇である二度に亘る世界大戦の原因の一つに、ヨーロッパでの国家間の複雑な対立があるとして、再び戦争による惨禍を避けるための方策として東西冷戦時代に発足した。1951年にわずか6ヶ国で発足した共同体は名前を変えながら、加盟国の数は拡大化に成功した。現在では2007年の5次拡大により、東欧からブルガリア・ルーマニアの加入により、28ヶ国から構成される欧州連合となった。私は2004年5月にバルト3ヶ国に出張する機会があり、参加直後の国民のユーホリアを実感することができました。



しかしそれから約 15 年経ち今やEUは①ユーロ危機、②難民危機、③テロ事件、④ウクライナ危機、⑤イギリス国民投票の結果のEUからの離脱など、複合的に多発的にほぼ同時進行してきており、EUが早急に手を打つべき問題が発生してきております。

そもそも、この流れの変化は、発足当時は戦争を回避するために東西冷戦に巻き込まれることなく、軍事だけではなく経済的にも安全保障を確立することであった。ソ連崩壊後、その危機感が薄まり、それに代わって国民が政治に求める価値感や自国の豊かさを追求する方向に次第に転換していった。協調による安全保障ではなく、まずは、自国民に対する安寧と安定した生活追及、実質所得の拡大の要求が前面に押し出されてきた。ブラッセルから決定に従うのではなく、自国のことは自国で決めるという政策が国民にアピールするようになってきたからである。

よく欧州はキリスト教、ギリシャ・ローマ文明という共通の文化を持っているので、共同体の運営は他の地域を比べても価値観は共通なために、比較的簡単であると期待され、モデルケースになると考えられていた。しかし万事設立した当時の期待通りに進むことは無く、17世紀のウエストファリア条約以来の約400年以上共有してきた価値観である国家として他国からの干渉されることなく、自己の責任と権利から逸脱することは難しくなっている。

いましばらくは、これからの展開を見極める必要があると思います。日本も他人事ではなく、EUで圧倒的な経済力を誇るドイツを交渉相手の中心に据えて、EU加盟国との間に工業先進国同士の水平的な貿易相手として今後の展開に応じて柔軟に対応して国際交流を深めていく必要があると考える。



商工会議所との協力を推進

NPO法人横浜日独協会は2月8日、産業貿易センター内の横浜商工会議所に上野孝会頭を訪ね、中小企業セミナーをはじめ協会の各種活動状況を説明し、今後の協力を要請しました。

同会頭は横浜日米協会の会長も兼務されており、日独交流にも理解を示されました。(早瀬記)



横浜商工会議所にて 左から3人目が上野会頭 2019年2月8日

■ 2019年3月 例会：ヤングクラブ主催

武田章寛 YC 会員のヴァイオリン演奏とトーク

・日時： 3月21日(木・祝) 午後3:00~5:00



デュオコンサート

Akihiro Takeda

武田 章寛

プロフィール

東京生まれ。2010年第8回東京音楽コンクール弦楽部門第3位受賞後、ソリストとして円光寺雅彦、マルク・ゴレンシュタイン指揮東京フィルハーモニー交響楽団、秋山和慶指揮とくしま国民文化祭記念管弦楽団、宮本文昭指揮東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団等数多くの国内オーケストラと共演。2016年には東京文化会館にてリサイタルを行い好評を博す。最近の室内楽の活動では、世界の第一線の演奏家と共演を重ねている。また、コンサートマスターとしての経験を多数のオーケストラにて積んでおり、German Scandinavian Youth Philharmonic の演奏会に3年連続コンサートマスターとして参加し、ベルリンのフィルハーモニーにて演奏の他、Orchesterzentrum NRW のコンサートマスターとしてドルトムントのコンツェルトハウスにて演奏した。現在ドイツ、フォルクヴァング芸術大学修士課程に在学し、現在はダニエル・ゲーデ氏に師事。2014年より財団法人 Villa Musica Rheinland-Pfalz 奨学生。2017年11月にはマーラー室内管弦楽団のアカデミー生として同楽団演奏会に出演。



ピアノ

Natsumi Kuboyama

久保山菜摘

プロフィール

2006年ピティナコンペティション F 級金賞。2013年2013年ショパン国際コンクール in Asia プロフェッショナル部門最高位。飯塚新人音楽コンクール第1位。2016年ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール第1位。カワイ音楽コンクール S コース 銀賞。サントリーホール室内楽アカデミー 第4期フェロー。5年生の平和学習で「世界中には苦しんでいる人達が沢山いる」ということを知り、6年生よりチャリティーコンサートを開催し今年で14年目を迎える。花乱社より母の久保山千可子との共著「なっちゃんの大冒険」が書籍と絵本が出版。2015年桐朋学園大学音楽部ピアノ科を首席で卒業。宮内庁主催桃華楽堂新人演奏会に出演。2018年桐朋学園大学研究科修了。作曲を森山智宏、ピアノを二宮裕子、練木繁夫に師事。

森利子さんが暮らした戦時下の山手

会員 大堀 聰

<序>

横浜日独協会の会員である森利子さん（以下森さんと書く）は、今年91歳です。お祖父様はドイツ人で、森さん家族は戦前、戦中を横浜山手で過ごしました。私は森さんの話を聞き取り、自分の調査を加え、ホームページ「日瑞関係のページ」で公開しました。そしてその文章を読まれた早瀬会長より、会員の皆様にも読んでいただこうと提案頂き、改めて森さんにお会いして加筆修正し、紹介させていただく次第です。



森さんと私。
以降本文中の
写真は森さん
の提供、もしくは
私が撮影した
ものです。

<アーレンス家>



祖父ヘルマン・アーレンス
展示会の入門証

森さんの祖父はドイツ人のヘルマン・アーレンスです。「アーレンス商会」を、兄であるハインリッヒ・アーレンスが、東京築地に1869年に設立しますが、早世してしまいます。そしてその後継者となったのが弟で祖父のヘルマンでした。商会の横浜支店の設立は1873年です。商館のあった場所は山下町29番で、ホテル・ニューグランドの斜め向かいです。以前は新館がなかったので、ホテルの中庭から、建物がよく見えました。

そしてヘルマンは日本女性“森りた”と結婚します。2人の子供をもうけます。長男新太郎と次男茂です。新太郎は田中キンと結婚し、ふたりの間に生まれたのが森さんです。

<住まい>

森さん一家の住まいは山手町の153番にありました。港の見える丘公園を越え、韓国総領事館の先になります。旧外国人居留地のひと区画でした。住む人に順番に地番を与えたので、アーレンス家は153番目という事になります。

敷地は500坪あったそうです。門を入った右側に関東大震災後に建てられた木造平屋建ての母屋があり、左は遊び場と畑で、畑は農業を研究する学生が借りて野菜等を栽培していました。したがってそこで採れた新鮮なイチゴなどを森さんは食べていました。



山手の家の中にて。祖母りた（中央）、新太郎、茂夫妻と森さん（右端）と弟。

<味覚の原点>

森家には専任のコックさんがいました。以前ホテル・ニューグランドに勤務していた“小林けんじろう”という人で、関東大震災で奥さんをなくし独り身になったので、父新太郎が自宅のコックに雇い、亡くなるまで面倒をみたのでした。

彼の作った料理が、今も森さんの味覚の基準となっているそうです。また戦争で物資が乏しくなるころ、小林さんはかつての職場ホテル・ニューグランドから食料を調達して来てくれました。当時モダンなホテルには、もう冷凍設備があったそうです。

<山手聖公会>

森家は代々山手235番に今もある「山手聖公会」の信徒でした。



森さんは小学生のころ教会のクアイヤー（合唱隊）に属していました。十字架を持って先頭を歩く役割であったそうです。写真は小学校5年生（おそらく1937年）の時で戦前です。中央で眼鏡をかけるのが森さん。最後列の男性4名は全員戦争で亡くなりました。



左は現在の聖公会

<戦争勃発>

山手の153番は海にも近い所でしたが、1941年12月に米英との戦争が始まると、外国人の移動制限が強まりました。

少し前の1940年10月11日に横浜港沖で天皇の観艦式が行われた際、御召艦「比叡」が天皇を乗せて港近辺を通過しました。その時は森家を含む山手の住民は皆窓を閉め、外を見てはいけなかったそうです。(この比叡が沈没から77年経って、海底で見つかったというニュースが、ちょうどこの文章を書いている時に報じられました。)

また山手には横浜地方気象台(山手99番地)があり、アメリカ軍の空襲の攻撃目標になるので、危険だと山手の住民は考えたそうです。当時天候情報は軍事機密で、天気予報は一般の新聞には載らなかった



山手の地方気象台は1927年の開設

ほどです。しかし山手はアメリカの戦略爆撃の攻撃目標からは外れたので、結果として山下町などと比べると、大きな被害はありませんでした。

家には「森」という名前の表札を出していたが、日本社会に通じた父親に、ドイツ人他の外国人がいろいろ相談の手紙を書いてよこしました。それらの宛名はローマ字で書かれていたため、日本人が横文字の手紙を受け取ることは怪しいと通報され、警察の家宅捜査もありました。母親は森さんに「引っ越しの準備のため」とか言ってごまかしたそうです。

<フリーメイソン>

祖父ヘルマンは秘密結社「フリーメイソン」のメンバーで、その衣装を大事に保存していましたが、後難を恐れて、祖母と母が夜中にこっそり燃やしてしまいました。実際に日本が英米に宣戦布告をした1941年12月8日、同じく山手に住むアルメニア人、マイケル・アプカーはフリーメイソンのメンバーという事で予備検挙され、14か月拘束されます。森家ではヘルマンが購入した外債の証書を、その後もフリーメイソンのロッジの金庫に預けていました。

そして祖母が年に一度、大きいシートから同じ図柄の小さな一枚を切り取り、横浜正金銀行の本店(今の神奈川県立歴史博物館)に持ち込みました。引き換えにもらう日本円はかなりの額であったようで、祖母は母には着物、森さんら子供にはお菓子を買って与えました。

森さんはそのロッジに勤務する日本人の子供と同年代の知り合いで、よく一緒に遊び、施設の中にも入ったことがあるといいます。普通の人は決して入れない場所です。その前には車のまだ少ない時代、「神1」のナンバーを付けた車がよく停まっていた。

<学校>

山手に今も続く、外国人を主な対象とするサンモールやインターナショナルスクールは、森さんの就学適齢期には閉鎖状態だったので、公立の北方小学校に通いました。卒業後は横浜共立学園に通います。山手212番地の共立学園は1871年創立の女学校で、1931年に建築された本校舎(W.M.ヴォーリズ設計)は現存し、横浜市指定文化財です。この校舎で森さんも学んだのでしょう。



しかし戦争中は授業もほとんどなく、もっぱら勤労働員に駆り出されました。森さんは川崎の東芝工場に動員され、風船爆弾の部品を製造しました。そのころ父が結核で亡くなりましたが、危篤状態に陥った時、家族が病院から電話を入れても

「兵隊さんは誰もいないところで死ぬのに、親の死に立ち会うなんて間違っている。」と工場は全く取り次がなかったそうです。その話を聞いた共立学園の神保勝世校長が抗議して、森さんはようやく病院に向かうことが出来ました。

また横浜線で長津田に向かい、駅からすし詰めトラックの荷台に乗って通称「田奈部隊」にも行きました。場所は今の「子供の国」で、弾薬を組み立てる工場でした。女学生はもっぱら作業員の食事を作りました。ここでは特殊の任務に就いた学生には、当時珍しいコーヒーが提供されました。火薬を吸った体にコーヒーは解毒作用があるとの事でした。

<ウッカーマルク号の爆発>

1942年11月30日の13時40分、横浜新港埠頭内でドイツ海軍の高速タンカー「ウッカーマルク」は爆発を起こし、近辺に停泊していた軍用船を巻き込み合計4隻が続けて爆発し、横浜港内の設備は甚大な被害を受けました。

この時の爆発音は凄まじく山手にも轟き、森さんの共立学園の海側の窓ガラスをも破壊しました。そして生徒たちは皆何事かと校庭に飛び出しました。マスコミの質問を受けないためにか、生徒たちはその日は夜になるまで帰らせてもらえませんでした。

この事故により、ドイツ海軍の将兵ら61人、中国人労働者36人、日本人労働者や住人など5人の合計102名の死者が出ました。そして亡くなったドイツ兵は山手と根岸の外人墓地に分けて埋葬されました。

日本のドイツ大使館では、駐在武官を中心にして慰霊のセレモニーを定期的に行っています。昨年も行われ、森さんは根岸の外人墓地（有名な山手ではない）に招待されました。



<強制疎開>

戦局が悪化してきた1943年9月29日、山手を含む地域が「絶対居住禁止区域」に制定され、全ての外国人に退去命令が出されました。横須賀軍港、横浜港全域などの展望可能で、機密である軍艦の出入りが見えてしまうという理由からでした。日本の同盟国のドイツ人も例外扱いはしませんでした。

この後多くの外国人が軽井沢、箱根に避難したことは私も知っていましたが、森さんによると順番が異なるという事でした。軽井沢、箱根の別荘は夏用に作られており、冬でしかも暖房用燃料の乏しい時代、暮らすのは大変であるという事から、彼らは先ず近隣を探しました。急な需要増に住宅が足りず、適当な物件が見つからない人が、“渋々”軽井沢等に避難したのだそうです。

森家はなかなか用意周到で、市内の南区平楽と中区豆口台に家を借りていました。平楽の家には井戸があり、水が常に手に入るという事で、祖母が住みました。

一方の豆口台の家は200坪あったのですが、父新太郎が結核に罹り1944年5月に死亡します。空襲を避けて入る防空壕の空気が悪かったのが大きな原因でした。しかも空気感染するので、森さんも含め家族が皆結核を患いました。そこでその家を売り、次は磯子に住みます。

<空襲>

磯子の家の向かいには飛鳥田一雄、後の横浜市長のお宅でした。1945年5月29日に横浜大空襲がありましたが、この辺りは疎開道路のおかげで火災を免れました。疎開道路とは延焼防止・避難路の確保のため、建物を間引いて広くした道路のことで、根岸には今も「疎開道路」の名称が残る道路があるようです。

なおB29が森さんの頭の真上で爆弾を落とした時は、落ち着いていました。慣性の法則から飛行機の進行方向に向かい、爆弾は垂直ではなく斜めに降ったのです。よって建物にも爆弾は斜めに突き刺さるように着弾しました。

空襲で逃げる時は、必ず学校の制服を着用するように言われていました。万が一の際に身元が分かるからで、実際に役立った例が森さんの周りでもありました。

また空襲で亡くなった人が靴を履いていて、それがどうしても必要な場合は、手を合わせ「すみません、私はまだ生きていますので、いただきます。」と言ってからもらうように、と学校の先生が女学生の素直な質問に答えました。

<戦後>

1945年8月15日の終戦から2日後の8月17日、磯子の家の前に黒塗りの車が止まりました。「日本にまだ黒い車があるのか？」と近所の人が皆驚きました。

車は政府からで、伯父の茂を訪ねて来たのでした。近くマッカーサーが厚木に降り立つから、通訳をやってくれという依頼でした。茂はセントジョゼフ・インターナショナルを卒業後、アーレンス商会を引き継いだヘルム・ブラザーズ商会などで働き、英語が堪能でした。

8月30日、マッカーサーが来日する日、また自宅に車が来て厚木まで乗せられて行きました。茂は通訳を終え家に戻る時、小豆をたくさん持ち帰りました。

厚木から横浜までの沿道で、たくさんの市民が「助けて下さい」の意味を込めて、当時貴重な小豆を米兵に差し出したのでした。元々は米兵が“アツギ、アツギ”と言うのを、あずき（小豆）と勘違いしたことが発端のようです。



厚木の住民とアメリカ兵。日時は不明だが、進駐してきた兵隊をもてなしている。

伯父の話では、ホテルでマッカーサーの執務室の机の上に「未決」「既決」の二つのボックスを置いておいたら、マッカーサーは「アメリカ軍に未決はない」と言って、一つを片付けさせたそうです。

マッカーサーは3日間ホテル・ニューグランドに滞在して、9月2日のミズーリ号降伏文書調印式に立ち会い、東京に向かいました。



当時のマッカーサーの部屋は今、マッカーサー・スイートとして一般の人も宿泊できるようになっている。ホテルの許可を得て撮影。

<山手の家>

戦前森さんの家153番の前のワシン坂通りは、大八車が通れるほどの広さしかありませんでした。しかし進駐するアメリカ軍はブルドーザーでドンドン道路を拡張したのです。それにより、住居の境界もよく分からなくなってしまいました。このあたりは士官用の宿舎に当てられたようです。

森さんは近年、知り合いのドイツ人と共にかつての住まいを訪ねましたが、もうどこであったか正確には分かりませんでした。私も探してみたが、152番が広がり今は153番自体が存在しませんでした。

そして戦後は住まいに関して一切の補償もなく、家は森家の手を離れました。戸籍も焼失してしまい、戦後森さんが語った事のみが、書かれているそうです。

<現在まで>

終戦直後、森さんはアメリカからの救援物資であるララ物資の分配の手伝いをしました。女学生は事務仕事で、男子学生は荷役を行いました。男子は山手学院の学生でした。



横浜港のララ物資の記念碑

かつてアーレンス商会のあった山下町29番には、そのことを説明するパネルが設置されていることは冒頭に触れましたが、外国商館の資料を収集する横浜開港資料館が尽力して、除幕式が行われました。また利子さんはアーレンス商会の資料を同館に寄贈し、2017年11月に公開されました。

パネル除幕式とそのパネル。



中区豆口台の「横浜カントリー&アスレチッククラブ」は、150周年を迎えた由緒ある外国人専用スポーツクラブです。森さんの父も、伯父もそこに所属していました。家から近い事もあり、森さんは毎年秋に開催されるオクトーバーフェストに今も参加しています。そして2年前、そこで私は森さんと出会ったのでした。（冒頭の写真）

一部季刊誌横浜2007年秋『家族の肖像』を参照しました。 完



‘中小企業はここまでやっている’

中小企業支援委員長

常務理事 坂井 啓 治

新刊書 ‘地域で活きる実践 IoT’ –
協立金属工業株式会社の IoT による見える化……

「ベテラン作業員のノウハウを若手に継がせることが生産性向上に欠かせない」その前に立ちはだかる「機械装置の稼働率を上げる」「技術継承」の二つの課題に取り組む横浜金沢地区の中小企業 ‘協立金属工業株式会社’の IoT 導入’の記事が、昨年12月発行の「地域で活きる実践 IoT」 [テレコミュニケーション編集部編 NTT 東日本ビジネス開発本部 監修]に掲載された。

同社代表取締役松村洋一氏は一昨年の IDEC-JDGY 第2回セミナー「ドイツ・インダストリー4.0」に IDEC(横浜企業経営支援財団)ご推薦によりパネルディスカッションのパネリストとして登壇願った経営者であり、横浜金沢産業協議会、同金沢区工業団体連絡会長の要職にある。

ヨーロッパの雄ドイツの中堅企業にとり積年の課題である「技術の継承」と「生産性向上」が、漸く動き出した第4次産業革命ともいえる「インダストリー4.0」のIoT(モノ作りすべてにインターネット)実践が、金沢工業団地の従業員 20 余名の中小企業で開花の環境が出来上がったのである。NTT 東日本と協同で、この日独共通の課題の解決へのチャレンジに取り組みの展開は「実際に現場で働いている若手のみなさんの発想力や思考力に期待しています」との社長の言葉だ。

同社の製造販売製品は、ステンレス鋼線、ピアノ線ほか金属線伸線加工品で、「線肌がきれい」と言う「真直線」は医療用に、また脅威の細さと精度を誇る「超極細線」は何と0.01-0.070mm 径のステンレス鋼線・ピアノ線で特殊なバネ用や最先端技術用に大きな市場シェアを持っている由。

この IoT 導入には、「I・TOP 横浜」に参加して支援をうける中、NTT 東日本の紹介を受け同社の課題を、試行錯誤の上で、先ずは次のような仕組みをもって解決することを協同して開発する事とした。

‘各装置の稼働状況を監視している積層灯をカメラセンサーで撮影し、それを数値に変換して稼働率を把握する。これで課題だった製造装置の遠隔監視ができ稼働率の低下を防げる。積層灯の状況は常に現場にいなくてもパソコン画面で確認ができ省力化も実現した。もう一つの課題であるベテランの技術をどのように新人に繋げるかでは、ベテラン作業員の動き全体が撮影できる位置にカメラを取り付け、これをアップロードして蓄積し新人研修に活用したい’とし、そしてこのことから、今後社員が、IoT による可視化の可能性を理解し、センシング技術の利用による生産性向上、生産技術開発等に役立てて欲しいと松村社長は考えている。

NTT 東日本と連携して IoT 導入への決断とその後の実証実験の結果などに想定外のこともあったと思われるが、それでも社長のチャレンジするという強い意志による推進……大英断には敬服です。

伸線の用途例



ステンレス鋼線素材
0.080mm - 0.500mm



医療器具カテーテルの
マーカー用 0.010-0.07mm



衣料用織り込むことで肌触り良く仕
上げることができ、スカーフ等の衣
類に使用されることがあります。
0.01mm-0.020mm

日経 BP 総研セミナー

「人手不足を打破する IoT 実践セミナー」

平成 31 年 2 月 1 日開催

基調講演(要約)

ダイヤ精機株式会社

代表取締役 諏訪 貴子氏



テーマ「中小企業が今、生産性向上を
求められる理由」

ダイヤ精機株式会社は、東京都大田区にある自動車メーカー及び各種部品メーカー向けの金型・ゲージ・治工具の設計・製作・製造を行う一貫加工メーカーで、創業 1964 年多品種少量の製造という伝統の技術を守りながら、2004 年創業者の他界により、二代目社長は自動車部品関連の企業を辞め、後継者となった子女(現社長)である。

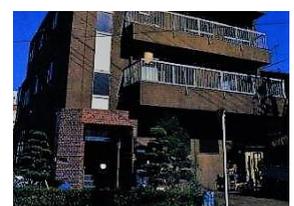
創業者の時代は、従業員は 50-60 歳が多く若者が少ない逆三角形の人材構成であったものが、現在は 20-30 歳の従業員が三角形の底辺を占めるまで改革に、辣腕をふるい、①意識改革にチャレンジ、②顧客からの目線を見た、納入業者として品質、納期、コストの重要性と強み、③LISTA 即ち中小企業全社の(納品、イベント)スケジュールや、社内の課題進捗管理、申請・稟議・日報などの管理ほか社内掲示板による情報の共有化の徹底など新しい社風の構築、堅実経営を維持し、2008 年には経済産業省の『IT 経営実践企業に認定』されるまでのご苦勞話がなされた。育児と経営を両立させる女性経営者として、地元でも著名である。因みに現在同社は資本金1億7800万円 年間売上高2.8億円 従業員数30名 工場は本社と矢口にある。

・NHKドラマ「マチ工場のオンナ」

2017-11-24～(オンデマンド)のモデル



スペシャルゲージ設計・製品



本社工場

ドイツ産業トピックス (第6回)

理事 大堀 聡 (中小企業支援委員)

1 2019年に最初の女性CEOが誕生するか?

Handelsblatt の、

「2019年に最初の女性CEO(最高経営責任者)が誕生するか?」という見出しが目に付きました。

「ドイツは一流企業 (Blue chip company) の女性進出が遅れている。しかし、BASF, Deutsche Telekom, Deutsche Post, Siemens が状況を変えるかもしれない。その中でも BASF の サオリ・デュブール (Saori Dubourg) 氏 がその最右翼である。」という記事です。(1月10日付)



“サオリ”は日本人の名前であると思い調べると、彼女は父親がシュヴァーベン出身のドイツ人で、母親は日本人、そして結婚相手がフランス人という国際性豊かな女性です。(Internationalität ist der Tochter eines Schwaben und einer Japanerin schon in die Wiege gelegt. =国際性は彼女のゆりかごの中に置かれていた。=生まれつきだ。)

彼女は20年以上 BASF (従業員 11 万人 年間売上高 約 9 兆円 世界の巨大総合化学会社の一つ) に勤務し、現在は欧州ビジネスの責任者です。今話題のテニスの大坂なおみとの違いは、国籍が日本でないことでしょう。しかし彼女がCEOになれば日本人としても、とても嬉しい事だと思います。

2 ドイツ老舗企業の苦悩

インダストリー4.0の旗手として、我々中小企業支援グループも注目する KUKA (クーカ) は、1898年に創業されたドイツの老舗産業用ロボットメーカーです。現在は全世界に1万2000人以上の従業員を擁し、30億ユーロの売り上げを誇ります。そんな KUKA は2016年8月、中国の家電メーカー、ミデアグループ (美的集団) に買収されて話題となりました。これについては1月の例会でドイツ大使館のフィッツエ首席公使も「経営状況から KUKA は中国資本の傘下に入らざるを得なかった」と触れていらっしやいました。

しかし昨年12月20日には「KUKA 社内では動揺が広がり、指導層が次々と会社を去っている。」の見出しで「長年の会長ティル・ロイターはミデアとの戦

略の相違、不満足な実績から会社を去らねばならなかった。」と出ている。(Der langjährige Vorstandschef musste seinen Hut nehmen =帽子を脱ぐ=辞任する)

次いで1月11日には「KUKAの社長は板挟みである」という見出しでの記事が出ました

「ドイツ経済の旗手 (Perle der deutschen Wirtschaft =ドイツ経済の真珠)である KUKA が中国企業ミデアによる買収が行われた際、同社は将来性のあるインダストリー4.0市場の中で過大評価され、高額の買収となった。しかし同社の中でロボット事業は全体の一部に過ぎないし、収益力も低い。」となっています。

どうも買収価格が高すぎたのが中国資本との不協和音の直接の原因のようですが、根本には中国式経営とドイツ式経営の確執があるのではないのでしょうか。



3 ドイツのユニコーン企業

昨年12月29日には

「これまでドイツにはフィンテックのユニコーン企業はなかった?」と出ています。

(Bisher gibt es in Deutschland kein Fintech-Einhorn? =一角獣、ユニコーン)

日本語にもなっている「ユニコーン企業」とは大まかに定義すると「評価額が10億ドル(約1100億円)以上の未上場のスタートアップ企業。」です。昨年時点ではアメリカ118社で次が中国。日本ではメルカリが上場した後は「プリファード・ネットワークス」という会社だけです。

しかしドイツでは2019年には、市場の再定義により初のフィンテック・ユニコーン企業(N26銀行)が誕生し、他の二の足を踏みがちなドイツの企業への勇気づけとなるであろうと述べられています。

ドイツにユニコーン企業が少ないのは日本と同様であると同時に、ドイツの金融機関もフィンテック技術を用いたモバイル銀行の時代に突入したようです。ドイツ銀行とコメルツ銀行の合併が検討されるのも、そうした銀行を取り巻く厳しい環境ゆえでしょう。

以上

文化委員会企画

教養講座「百人一首をよむ」

【日時】原則として毎月第1水曜 13:00～14:30

【会場】神奈川県民センター会議室
(横浜駅西口より徒歩5分)

3月例会 3月6日(水) 604 会議室

4月例会 4月3日(水) 710 会議室

5月例会 5月8日(水) 604 会議室

【講師】寺澤行忠会員 (慶応義塾大学名誉教授)

♪ ホストファミリー募集 ♪ ～フランクフルトからの高校生～

4月に横浜市の姉妹都市フランクフルト市より高校生2名が来浜する予定です。例年、現地の作文コンテストで選ばれた優秀な生徒たちが、当会の会員宅でホームステイをしています。彼らと触れ合うことは、ドイツの習慣や若いドイツ人の考え方などに接することのできる楽しい時間となるでしょう。

会員の皆様の中で、彼らをお家に泊めて下さる方を募集しております。お子様やお孫さんにとっても、海外の若者と直接触れる良いチャンスとなるのではないのでしょうか。

日中は役員等がアテンドいたしますので、宿泊と朝・夕食のお世話をしていただければOKです。また、ドイツの高校生は英語も堪能ですので、英語での意思疎通ができます。

日程：

2019年4月12日(金)夕方～4月17日(水)朝まで
(前半と後半のいずれか2～3泊でも結構です。)
宿泊費につきましては会よりの補助も検討中です。

ご興味のある方、会員の皆様の積極的なご支援・ご協力を心よりお待ちしております。ぜひ下記までご連絡くださいませ。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

佐藤 恵美 UGI47592@nifty.com

事務局：能登 jdg-yokohama2010@outlook.jp

新入会員：浅尾 一寛様 (あさお かずひろ)

行事予定

■ 2019年3月 例会：ヤングクラブ主催 武田章寛 YC 会員のヴァイオリン演奏とトーク

・日時：3月21日(木・祝) 午後3時～5時
・会場：戸塚区民文化センター4階 リハーサル室

・デュオコンサート：
武田章寛 YC 会員(Vn)、久保山菜摘(P)

演奏プログラム

ロベルト・シューマン：3つのロマンス 作品94
リヒャルト・シュトラウス：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 変ホ長調 作品18他

・会費：例会・懇親会-1000円

■ 2019年4月 例会：

・日時：4月13日(土) 午後3時～5時
・会場：戸塚区民文化センター 4階 練習室①
・講演：大野真理子 会員

『開戦前夜：政治家 齋藤隆夫の挑戦
～命をかけた名演説～』

・会費：例会・懇親会-1000円

■ 2019年5月 定時総会及び例会：

・日時：5月25日(土)
午後1時30分～定時総会 3時～ 例会

・会場：戸塚区民文化センター4階 練習室④

・総会：第3回 NPO 定時総会

・講演：マライ・メントライン女史(予定)
翻訳、通訳、エッセイスト、番組制作、
TVコメンテーターとしても活躍中

・会費：例会・懇親会-1000円

会員コンサートのご案内

館野ゆかり会員(ソプラノ)
Cantare MIYU IV - (JDGY 後援)



4月22日(月)19時開演 日暮里サニーホール
イタリア古典歌曲とオペラアリア

入場料：3000円(全席自由)

入場ご希望の方は事務局(能登・齋藤)へ連絡ください。

NPO 法人 横浜日独協会会報 発行 2019.3.1 (第49号)

所在地：〒231-0062 横浜市中区桜木町 1-1-56

5階 市民活動共同オフィス内

Tel: 080-7807-7236

E-Mail: jdg-yokohama2010@outlook.jp

会報編集責任者：山口 利由子

E-Mail: jrr3@mvj.biglobe.ne.jp

横浜日独協会ホームページ <http://jdg.sub.jp>

法人会員

株式会社文芸社 ウィンケル株式会社 ボッシュ株式会社 トルンプ株式会社
ワインブティック伏見 モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合 横浜国立大学-成長戦略研究センター
公益財団法人登戸学寮 株式会社コトブキ 神奈川大学 ケルヒージャパン株式会社
キャリア・デベロPMENT・アソシエイツ(株)